

● 近年、注目を集める「自由民主主義指数」

V-Dem研究所（スウェーデン）

2014年にイエーテボリ大学の教授らが設立した独立調査機関。事務局は同大学内。

世界の政治学者や研究者ら数千人が協力し、18世紀末から2023年までの世界中の民主主義に関する数千万のデータを集計。民主主義に関する世界最大級のデータベースを構築。

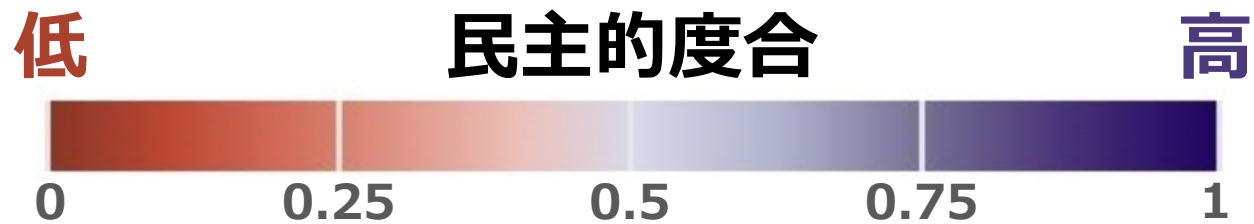
選挙制、自由主義、参加型、熟議型、平等主義のなど各分野の民主主義の度合いを数値化する活動を続けている。

この中の自由主義に関わるデータが「**自由民主主義指数**」**(Liberal democracy index)**。先週、2023年分が公開。

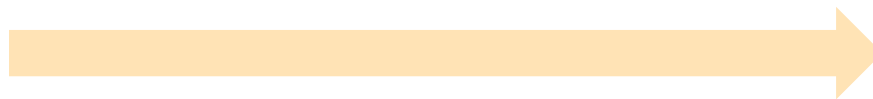
出所：V-Dem研究所の資料をもとに筆者作成

V-Dem研究所は「民主主義の定量化」に関する活動をしている。

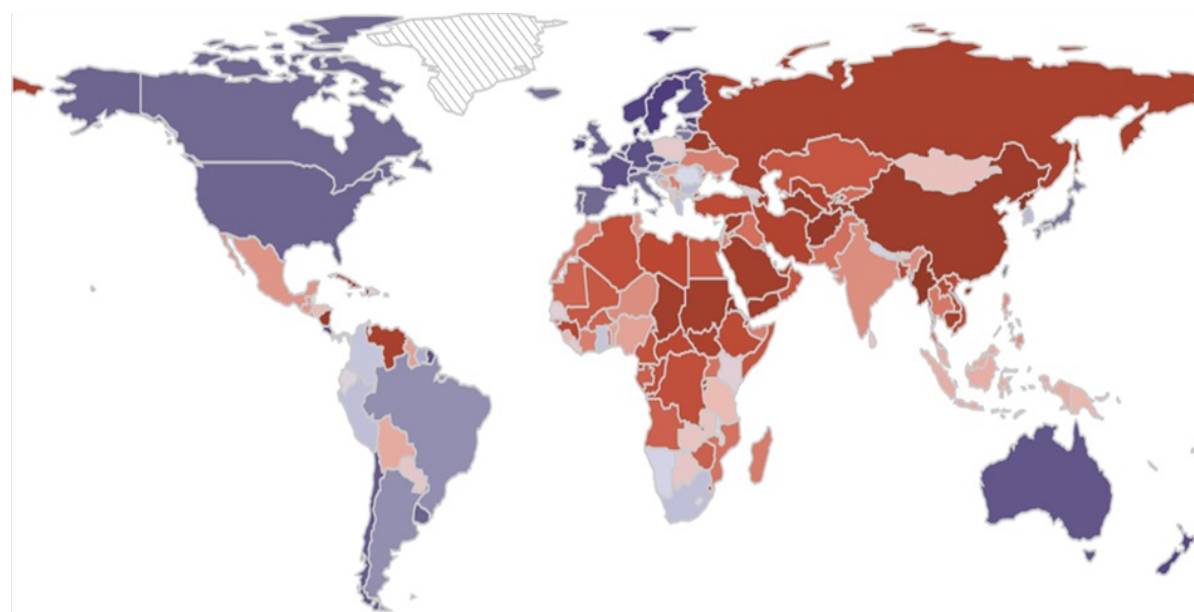
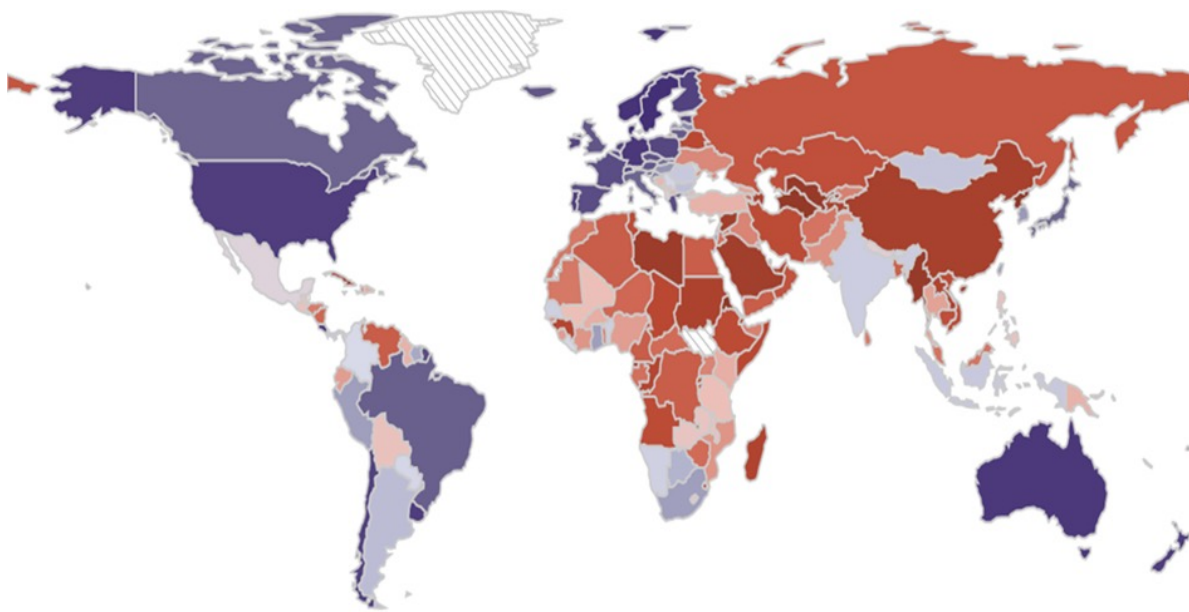
● 自由民主主義指数 2010年と2023年



2010年



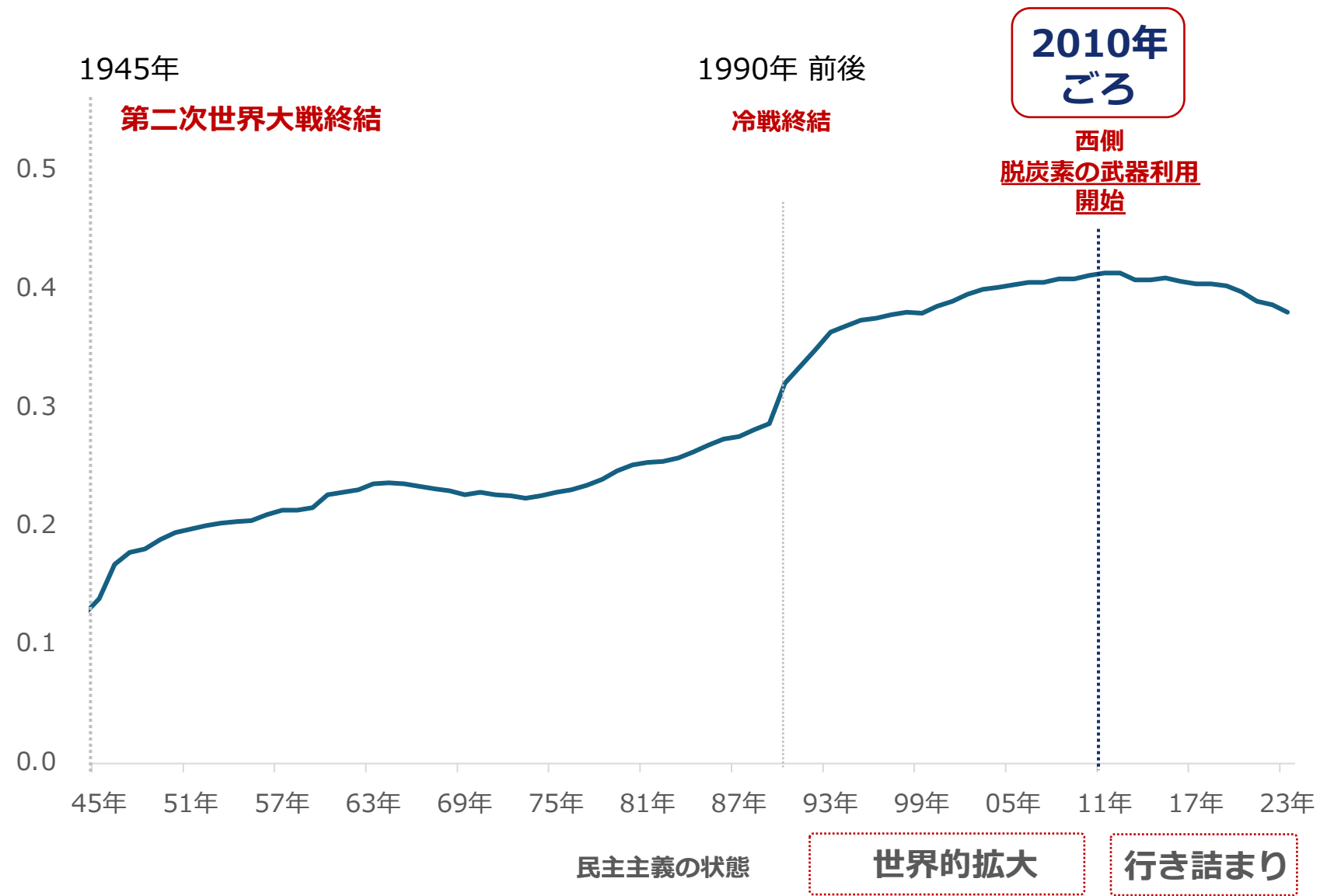
2023年



出所：V-Dem研究所の資料をもとに筆者作成

2010年以降、濃い青 減少、濃い赤 増加、薄い青 → 薄い赤。民主的度合 低下。

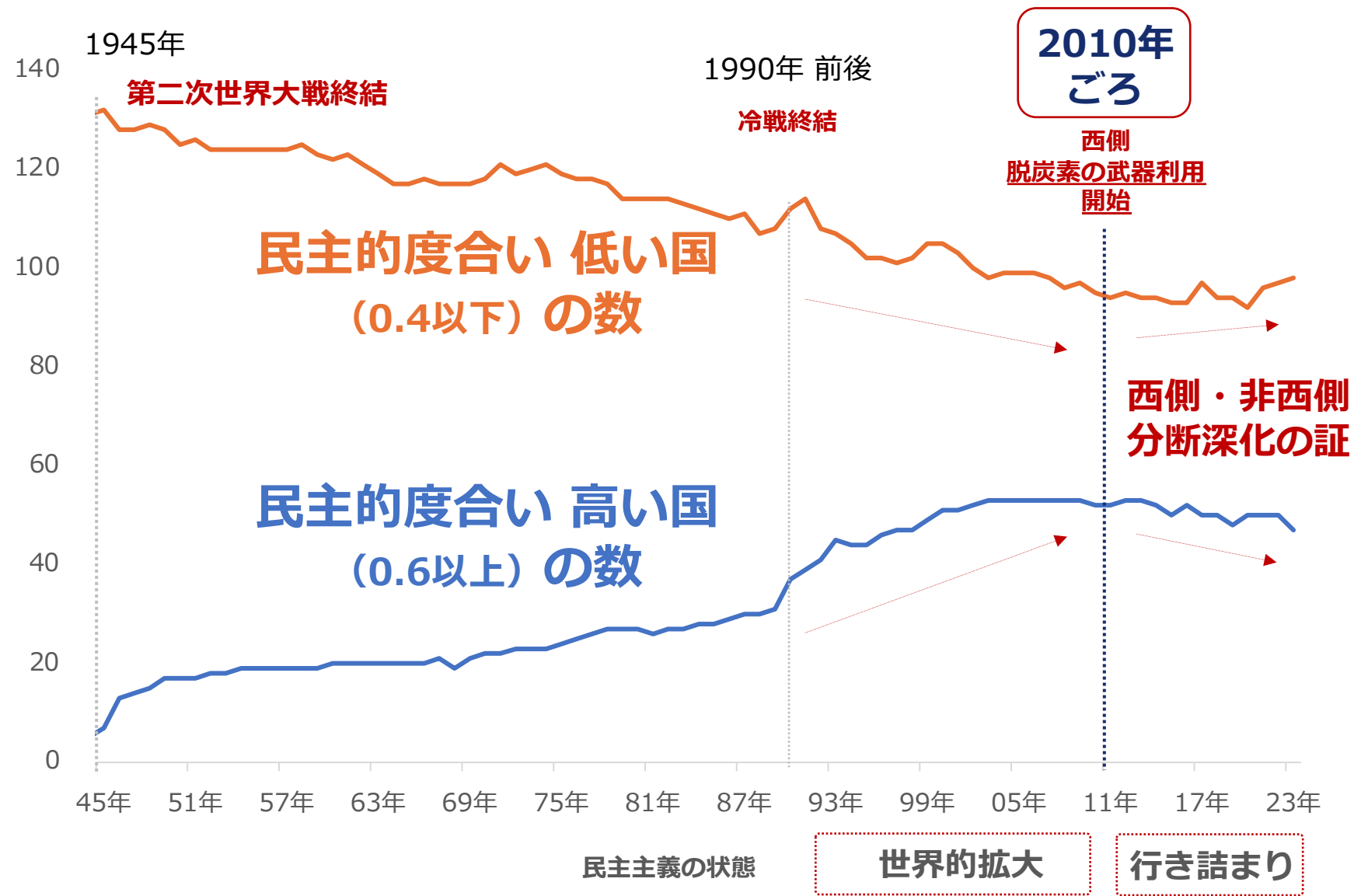
自由民主主義指数 (世界全体の平均)



出所：V-Dem研究所のデータをもとに筆者作成

第二次大戦終結直後、民主化が進んだが、近年の民主度は低下中。

● 自由民主主義指数0.4以下および0.6以上の国の数 (1945年~2023年)



出所：V-Dem研究所のデータをもとに筆者作成

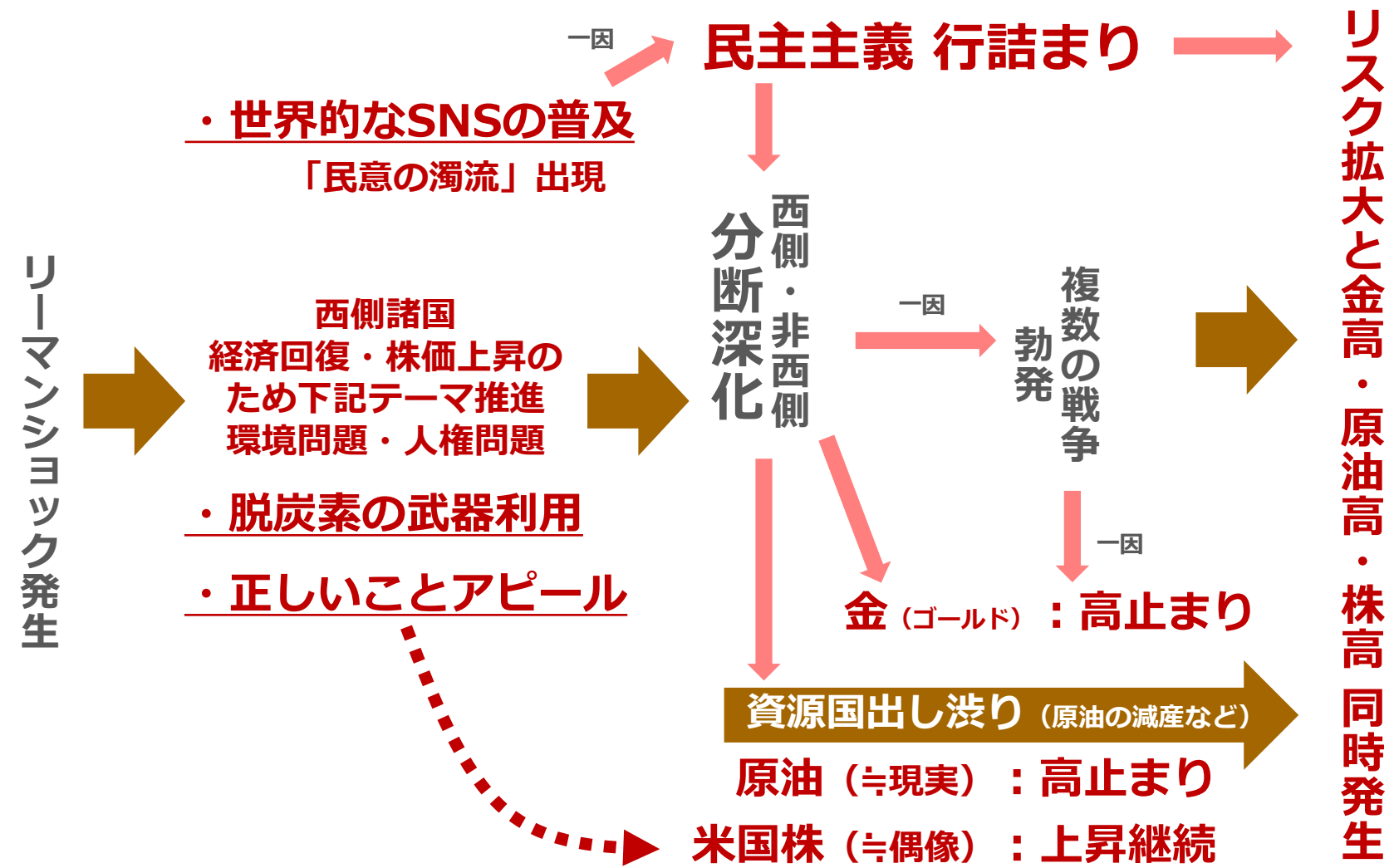
第二次大戦終結直後、民主化が進んだが、近年は分断深化中。

● リーマンショックを起点とした世界的なリスク拡大と金・原油・株高の背景 (筆者イメージ)

2008年

2010年ごろ 以降

22・23年



出所：筆者作成

リーマンショック後の西側の対応とSNSの普及が、分断深化の一因。

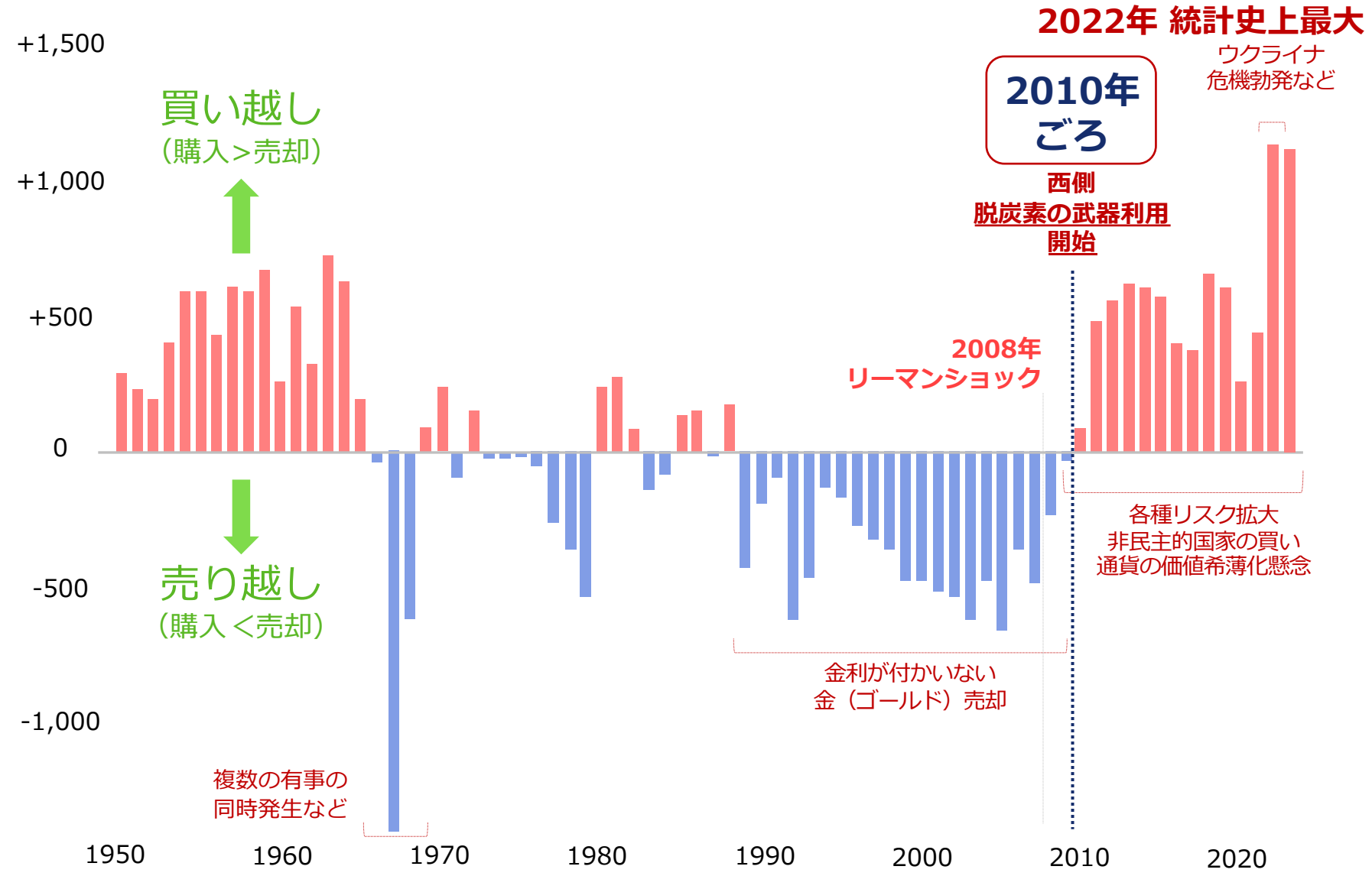
● MSCIオールカントリーワールドインデックスと金（ゴールド）の価格推移



出所：LBMAおよびQUICKのデータをもとに筆者作成

2010年ごろからの民主主義の行き詰まり開始以降、金と株の連動性が高まった。

● 中央銀行による金（ゴールド）買い越し量の推移 単位：トン



出所：WGC（ワールド・ゴールド・カウンシル）の資料をもとに筆者推計

分断深化が始まった頃から 中央銀行の金（ゴールド）買い越しが目立ち始めた。

● 金（ゴールド）に関わる七つのテーマ（2024年 筆者イメージ）

期間	テーマ	材料（一例）
短期 中期	(1) 有事ムード	世界規模の不安拡大時における資金の逃避先 ↑ イスラエル・ハマス戦争、ウクライナ戦争続く
	(2) 代替資産	株式（主に米国株）の代わり ↓ 株高
	(3) 代替通貨	通貨（主に米ドル）の代わり ↑ 米利上げ → ドル高・金安 ↓ <u>米利下げ → ドル安・金高</u>
中長期	(4) 中印等の宝飾需要	宗教的・民族的背景による買い手 -
	(5) 中央銀行	雇用・金利を調整する銀行の銀行の保有 ↑ 各中銀行の金保有高増加
超長期	(6) 鉱山会社	生産者（高値で増産、安値で減産） ↑ コスト増加起因の生産減少 ↓ 増産・売りヘッジ
	(7) 見えないリスク	後戻りしない「世界分断」 ・西側 非西側の対立激化 ・異常気象 など

FRB方針転換

円建て金（ゴールド）は、(8) 「ドル円の変動」も

円安 → 円建て金高
円高 → 円建て金安

出所：筆者作成

材料複合化時代。中長期的には「中央銀行」に注目。